さいたま市教組情宣

さいたま市
教職員組合
（埼教組）

TEL 641-6763
FAX 648-3567
e-mail
saisikyouso@mx2.
et.tiki.ne.jp

2003.1.17(金)
No.18

３０人学級実施を求める請願

63029筆を不当にも否決！

昨年十二月十六日（月）午後一時四十五分頃から三十人学級請願の審査がさいたま市議会教育・市民委員会において行われ、私たちの提出した請願は五対一〇で否決。不採択になりました。

討論の要旨

◆加川（共）
「委員の皆さんに志木市の視察報告を配ってよいか」

◆田口（公）
「委員会に委員の出した資料が出されるのはどうか」数人が同意見を言う。

◆委員長
「資料は委員会では配らない。終了後欲しい委員は加川議員から貰って下さい。」

◆加川（共）
「さいたま市議会始まって以来の六万筆という数をどのように受けとめたのか。少人数指導サポートプランはどのように配置されているのか。」

◆教職員課長
「六万余りの署名が集まったことは承知している。しかし、少人数サポートプランを立ち上げて年度も終了していないので、少人数指導の方でご了解頂きたい。少人数指導は小十一、中六の十七校に配置、残り一一七校は配置されていない。効果については指導一課から」

◆指導一課長
「本年度はじまったが、児童・親は大変良いが八〇％以上、教師は児童の力に応じて無理なく指導できるようになったという」（略）

◆生方（緑政会）
「昨年、わが会派を中心に少人数指導の請願をし、採択されている」（略）

◆川上（公）
「加川さんは志木市と比べてさいたま市の対応が遅れていると言っているようだが」

◆学校教育部長
「今、三十人学級が広く言われているのは認める。六万の署名も多い数と受けとめている。しかし、私どもは市の情勢から去年採択された少人数指導で進めるという請願を考えて少人数指導を進めてきた」

◆細川（無）
「単純な質問だが、今、三十人学級をやらないのはなぜか。少人数指導がよいから選んでいるのか」

◆学校教育部長
「教育の形態はいろいろある。どちらがいいか悪いかではなく、財政・学級数など総合的に考えていくと少人数指導がよい」

◆山城屋（共）
「先進国のクラス編成はどうか」

◆教職員課長
「フランスの一年生は二十五人、アメリカの一～三年は三十人以下、四～八年は十八人以下、ロシアは上限が二十五人、ドイツは一～四年二十四人です」

◆山城屋（共）
「公約した市長から全く聞いていないのか」

◆学校教育部長
「市長から直接伺うことはないので、私は特に聞いていない」

◆加川（共）
「最終的には市長の決断だと思うので、ぜひ決断して欲しい」

◆川上（公）
「委員長、参考意見だけにとどめるように。議案の審査と請願はちがう」

◆加川（共）
「質問は参考意見を聞くために重要だ」

◆学校教育部長
「さまざまな方法がある中で、今現在さいたま市では少人数指導を行うのがよい方法だと思う」

委員会傍聴記

30人学級実現を願う６万３千筆の市民の署名を添えた請願と採択の結果は賛成５（日本共産党３、市民ネット１、緑所属１）、あとの10人が反対で不採択という驚くべきものでした。しかも反対した委員は緑政会のひとりを除いて誰もその理由を明らかにさえしませんでした。公明党の委員の一人は共産党議員の資料配布に異議を唱え、志木市などの実情を知らせることまで妨害しました。６万３千筆に込められた市民の願いをいとも簡単にはねつける与党の委員の姿勢に市民とはかけ離れた、大変冷たい感覚と体温を感じた場面でした。

確実に前進した請願運動

請願が不採択にされたことは非常に残念ですが、多くの成果や教訓を産み落としたこともまた事実です。私たちはこの運動に確信を持ち、子どもたちに豊かな教育を受けさせるために力を合わせていきましょう。前進面のいくつかは以下の通りです。

委員会討論の中で

票決で言うと昨年は三対十三だったのに対し、今年は五対十（一人欠席）でした。委員会討論は昨年（二万筆での請願）と比べ、議論になりました。昨年はいくつかの政党が意見を言うだけで議論にはなりませんでした。今年はひどさは感じるものの、実施への障害は何なのかが明らかになりました。昨年の少人数指導だというのに比べ、今年の教育委員会は少人数学級という方法を認識しているという発言をしました。六万筆の重みを感じました。

政党まわりの中で

昨年はまわりきれなかった政党まわりを全会派対象に行いました。その中では個人的な考えながら肯定的な意見を聞くこともでき、昨年の門前払いとは雲泥の差でした。

《さいたま市自民党　近藤豊団長》
「そんなことやらなくってもいずれ三十人になっていくよ」
《さいたま21　松崎良一団長》
「切実な願いということですね。わかりました。二人だけの会派で委員会にはいないので、教育市民委員会の委員の皆さんの意見も聞いてから判断します」
《緑政会・芳賀義宣議員》
「個人的には、いずれ三十人学級になると思う。現実的には空き教室があるか、マンモス校で少人数にできるかなど不都合な問題もある」

署名活動の中で

六万筆余りの署名を集めることは簡単なことではありませんでした。寒い中での駅頭署名、他団体への要請活動なども行ってきました。

そうした中でも特筆する成果は、「無数の語る会を開こう」という取り組みでした。ある会員は「忙しい中で知らず知らず学校が遠い所にさせられていました」「学校の先生としっかり手を取り合いましょう」と述べていました。そして苦労して会を実施したところはひとつの種を蒔いていったのです。

この運動を今後とも

署名をして下さった方々、私たちにかわって署名を集めて回って下さった皆さんに本当に感謝いたします。今後ともこの運動を支えて下さるよう切にお願い致します。